



限界ふたなりさとりんを  
完全屈服させる方法

■これまでのあらすじ■  
地霊殿の主・古明地さとりは敵対勢力に捕まってしまうとどりを催出するため心身共に呪とす変態調教が始まり十日が過ぎた

「おらっしっかり立て！」  
男の逞しい腕を支えられながら歩くさとりの足取りはおぼつかない調教が始まってから今日で十回さとりの股間には今にも爆発しそうなほど張り詰めた巨根がそそり物ついでいる  
その原因は外からでも見てわかる程の尿道パールの射精封じ、そして勃起状態を維持し続けるためのちんぼラバーと薬物投与によるものだ

「や…めなさい…んひっ♡！ッ…この程度の調教で私を堕とそうなんて無駄なことよ…んオオッ♡」

「クッククク…そんなナリでまだ軽口が叩けるか。さすがは地霊殿の主様だ」  
リーダ格の男が下卑た笑いを浮かべる  
「よし。敵ながらあつはねなその態度に免じて射精の禁を解いてやろう」





「まだまだなほ長いんだおれたちも  
深らせてもらおうぜ」  
「ソフオツツスツ♡」

「このアカパイオナホららっせ」  
「なほなほえれ肉じやがって」

「のどオナホたまんねえ↑精液で胃袋パンパンにしてやるからな！」  
「おい後で使うんだからこわすんじゃねーぞ」  
「ぐおっ 締まるッ」  
「バカ、締めんな」

「すっぴーといつのまんこすつと痺撃しうばなしじゃねえか！  
こんなのすんにイッちまうぜ！……くっそ！まだ治まんねえ！  
まんこすっすになるまでやってやる！」

おっつっ♡ぶえッ……

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

「おっつっ？すげえバキューム！  
こいつ金玉まで飲み込む気か？」

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ

グッ  
グッ

グッ  
グッ

ぬっ  
ぬっ

たっ  
たっ

「こいつの胸、乳まんこロケットか  
ちんぽ汁吸引器だな  
母乳じゃなくて精液溜めてんじやねえのかー」

「お、今アックスカウントして100回を99回したわー！  
「55をまだ30」！1回分のイッちまうぜ……  
「ひーのせーせーのせーせーのせーせーのせーせー」



んゴオオオオオオ

ちんぽ♥♥おおツ♥♥ちんぽじぬう♥♥

ちんぽっちんぽが♥アアアアアツツ♥♥

オオオオオ

「くっくっ、いったぜさとりちゃん  
聞いちゃうんだろがご褒美の時間だ」

溜めに溜めた限界射精だ！  
金玉空っぽになるまで出しやがれ！

イギイイイイツグググツツ~~~~♥♥





「ただし！」

いっほっ

出すのはためーの

ケツまんこにだっ！

オホ

ふりゃん

ふりゃん

くどくど熱成すた

せんがたし



